17.子どもの貧困・虐待を自分の問題として受け入れるためには：いかに世間に広めるか

飯塚直人

はじめに

このレポートでは、子どもの貧困・孤立・虐待問題について論じていく。これらの問題は近年日本では問題視され始めてきた。しかし、未だにこの問題に関して知らない人が多い。特に富裕層以上の家庭ではこの問題の認識が薄い。これは自分自身の問題として捉えることができていないことを示している。中間層になると、まだ認識している人はいるが、やはり知らない人もいる。

この問題を知っている人だけが何か行動を起こせば解決できるのか。本文では、子どもに起きている 3 つの問題を社会全体で取り組むべきであるという考えのもとに考察していく。

子どもに起きている問題を世間に受け入れる、認知されるにはどうしたらよいか。地球温暖化問題のように社会全体で取り組むことができれば解消される問題もあると考えているから、この問題を知らない人が自分のことのように受け入れてくれることがこのレポートの目的である。この問題を知ったとき、あなたがどう行動すればよいか、見えてくるはずである。

第 1 章　日本の現況

本文ではまず、日本の現況からふれていこう。子どもの貧困とは現代の日本においてようやく問題視され始めてきた問題であり、この国が今、最も力を入れて取り組むべき問題であると考える。子どもの貧困が悪化することにより、日本には損しかない。若い世代で働く人が減り、税金が納められず、優秀な人材を確保することが難しくなる。これは機会将来に起こることであり、その悪循環の火種はもう出来上がっているのが今の日本社会である。現在、どこまで悪化しているのか。それをまず見ていく。

この問題が今の日本でどこまで進んでしまっているのか。知らない人が多いなかでどこまで悪化してしまっているのか。

まずは子供の貧困がどのようなものか。単純に家庭が貧乏というだけではなく、子どもの成長を妨げてしまう事象・事柄が現代社会では増えてしまい、それらが未来ある子どもの将来を狭め、苦しい思いをさせている。ではどのような世帯の子どもが主に貧困にあるのか。

特に厳しい状況に置かれているのは、ひとり親世帯の子どもたちである。母子世帯の貧困率は 50%以上、父子世帯の貧困率は 30%以上となっている。欧米に比べると、ひとり親世帯に育つ日本の子どもの割合はまだまだ低いが、年々増加している。厚生労働省の調査によると、母子世帯は推計 124 万世帯、父子世帯数は 22 万世帯である（注１）。子どものいる世帯数は、1180 万世帯（注２）であるから、子どものいる世帯の約 12%はひとり親世帯ということになる。これは約 8 世帯に 1 世帯はひとり親世帯ということになり、ひとり親世帯は珍しくないところまで来ている。特に母子家庭は子どもの貧困に多く影響しており、母子家庭で育つ子どもの約 7 割は貧困状態にあると言われている。また、日本のひとり親世帯で起きる特徴的な問題として、ワーキング・プアが挙げられる。

ワーキング・プアとは、働いていても所得が貧困基準値を超えない人々のことである。この問題の背景には、低賃金で働く非正規労働層が関係している。ひとり親世帯、特に母子家庭の場合、就業こそしているものの子どもを抱えての正規就労は厳しく、半数以上の世帯は

非正規就労であり、正規就労であったとしても男性と同等の賃金を得ることは難しいのである。実際に知り合いの世帯でひとり親世帯の子がいる。高校の時の同級生でその子は高校に入学後すぐにアルバイトを始めた。話を聞くとその子の家は母子家庭で家計が苦しくアルバイトをして少しでも家計の足しにすると言っていた。15 歳で既に家計のことまで考え、アルバイトをしながら勉強をしなければならないとこまで来ているのかと驚愕した。これを聞き、貧困問題は既に他人事ではないと感じられたのだ。実際に近くに困っている人がいるのだ。15 歳の若さで同級生と遊べずに、勉強をしながらアルバイトをしなければならない子どもがいる。これは非常に悲しい現実であり、現在の日本ではこのような子供が増加傾向にあるのだ。このような子どもが増え続けた場合、日本には優秀な人材を育成するどころか皆が苦しい状況で過ごす、まさに地獄絵図のような未来が広がるかもしれないのである。貧困とは金銭面だけではなく、機会格差、教育格差も非常に影響しているのである。

第 2 章　子どもの虐待問題

次に子どもの貧困問題と密接な関係がある子どもの虐待について見ていく。密接というよりか、もはや子どもの貧困問題の一部として見たほうが良いかもしれない。

虐待とは 4 種類あり、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクトがあり、それぞれ単独で発生することもあるが、日本で流れる虐待のニュースからも読み取れるように、暴力と暴言や脅し、性的暴行と暴力や脅しなどが複雑に絡まり合い起こる場合もある。一言で虐待とまとめても、その虐待には特徴があり子どもを追い詰めているのである。

子どもの虐待について少し長くなるがよく考えてみていきたい。子どもに虐待をする親がどうしているのか。テレビを見ていると流れてくる子どもの虐待についてのニュースはあまり深いところまで触れていない。最近の虐待のニュースで有名になったものを一つ取り上げる。

千葉県野田市立小 4 年の栗原心愛（みあ）ちゃん 10 歳が自宅浴室で死亡し、父親の栗原勇一郎容疑者が傷害容疑で逮捕されたこの事件。心愛ちゃんは学校のアンケートで自由記入欄に、‘‘お父さんに暴力を受けています。夜中に起こされたり、起きているときに蹴られたり叩かれたりされています。先生、どうにかできませんか。‘‘と書いてアンケートを提出。この他、選択式の設問にはいじめを受けていることについて、家族からのいじめと記入し、暴力を受けていると記入をしたという。心愛ちゃんはこの後 29 年 11 月 7 日に県柏児童相談所に一時保護され、保護解除後の 30 年 1 月に死亡時に通っていた同市内の別の市立小に転校した。このニュースは最近の報道を占める割合が多く、ニュースが流れるたびにこの事件についての報道をしている。しかし、最近の報道では心愛ちゃんが死亡したことではなく、教育委員会の対応についての報道ばかりされている。教育委員会は心愛ちゃんのアンケートを父親の勇一朗容疑者が開示を求めており、その父親の威圧的な態度に弱腰になりアンケートのコピーを父親に渡したというこの行動について言及されている報道が多い。確かに教育委員会の対応はよくないものである。しかし、本当に報道されるべきニュースはそこではない。なぜもっと早く心愛ちゃんの虐待に周りが気付いてあげられなかったのだろうか。殴られたり、蹴られたりしていたならばアザや傷跡があるはずであるし、なんなら近所の人が家の変化に気づいてあげることもできたと思うのである。教育委員会の対応ばかり攻めていても日本の虐待問題の解決にはならないのだ。この事件で逮捕された父親は、この

死亡したことに対し‘‘しつけのつもりでやった。悪いことをしたとは思っていない‘‘と答えている。心底腹が立った。仮にもこの父親が心愛ちゃんを愛していたとするのなら死亡してしまったことに対して‘‘悪いことをしたとは思っていない‘‘なんて言葉がどこからでてくるか。こういった親から子どもを救う方法はないのか。それについてもっと世間は考えるべきである。

本文では一番新しい虐待のニュースを取り上げたがどうだろうか。虐待を受けている子どもを救ってあげたいという思いは沸いてこないだろうか。子どもの貧困問題とこの子どもの虐待問題はお互いに関係しあって起きていることが多いのである。だからこそすぐに解決するべき日本の問題なのである。

第 3 章　子どもの貧困・虐待問題を世間が認知・解決に取り組むには

第 1 章と第 2 章で述べてきた子どもの貧困・虐待問題は特定の人間の問題ではなくなってきているのが今の日本である。貧困は約 8 世帯に 1 世帯の割合で起こっており、虐待に関してはニュースで取り上げられているものだけではないはずである。これらが起こってしまう問題点は、その関係者らにある。しかし、同じくらい酷いのは他人事のように見て見ぬふりをする世間である。どうしてこの問題を無視できるのか。一部の人間が解決に向けて努力すればいいのか。それは絶対に違うであろうことは誰しもがわかることだと思う。どうしたらこの問題を世間が自分の問題として認知し受け入れ、解決に向けて取り組むようになるのか考えていきたい。

まず大切なのは世間一般の方がこの問題を認知することである。それが前提としてなければ解決に取り組むことなど不可能である。子どもの貧困問題を知っている世間一般の人はそう多くはない。実際に貧困状況にある人、つまり貧困層の人ならば嫌でも理解しているだろうが、そうではない人、つまり中間層から上の人たちである。中間層の人はこの問題に関してある程度知識を持っている人はいるが、やはり全員がこの問題を知らなければならない。そうなると問題は富裕層以上の人たちである。富裕層以上の人は貧困層と関わる機会が少なく、貧困に関してはあり得ない状況にある人たちであるから、貧困というものがいかに身近にあるかを知らないのだ。貧困問題の認知を広める方法として、有力なのはマスメディアを活用することである。メディア媒体から発信される情報は今の世の中では簡単に入手することができる。インターネットが普及し、SNS が人々の中心にある現代ではこの方法は非常に有効であると考える。例えばテレビ番組の間に流れるコマーシャル（CM）で、子どもの貧困・虐待についての簡単な説明、又は身近にあることを伝えるだけでも効果はある。ニュースで子どもの貧困・虐待について報道するのもよいが、若年層の人たちのニュースを見る割合は全国的に見て少ない。それよりかは若年層の人たちがみるバラエティー番組やドラマの間に流れる CM で流すほうが効果はあると思う。

おそらく最も効果があるのは、国がこの問題に対して本気で解決に向けて取り組みを始めることが世間の認知を広めることにも繋がり、解決策を打ち立てる人が現れるきっかけにもなる。地球温暖化問題が騒がれ始めたときのことを思い出してほしい。地球温暖化問題が世界で騒がれ始めてから日本が取り組みを世間に広めていったのは、地球温暖化問題が発覚してからおよそ 20 年後である。日本の政府が世間に広めていったから日本国民は地球温暖化問題に対して取り組むようになっていったのである。この事例を子どもの貧困・虐待

問題にも活かすことができるのではないだろうか。日本政府が国民に対し呼びかけを行うことがどれだけの影響力を持っているかは地球温暖化問題の時、既に実証されている。国が本気で子どもの貧困・虐待問題に取り組むようにするには、この問題を放置することにより日本の未来にどう影響し、どのような損失が出るかを政府に伝えることが重要である。

国民がこの子どもの貧困・虐待問題を自分のことのように受け入れるためにはまずはこの問題を知ってもらう必要があると上記で述べたが、自分のことのように受け入れるのには時間がかかる。地球温暖化問題の時のことを例に挙げて説明したが、認知すること自体はそこまで難しいことではない。しかし、自分のことのように受け入れるには地球温暖化問題は地球全体という大きすぎる規模がゆえに自分の問題として受け入れることは難しかったのだ。だが、今回このレポートで述べてきた子どもの貧困・虐待問題については表面上見えないことが多いだけであり、実は身近に潜んでいるのだということを気づかせてあげれば、普通の人なら意外とすんなりと受け入れてくれると考える。

ではどうすれば気づいてもらえるか。そう気づかせてあげるためには、子ども食堂は非常に効果的であると考える。子ども食堂には安い食を求め多くの子どもたちや、親子連れが参加する。実際に子ども食堂に参加させていただき感じるが、こんなにも多くの子どもが参加するということはそれだけ貧困問題は身近に、尚且つ悪化しているのかという驚愕が隠せないでいる。貧困に見えない人でも子ども食堂に参加しているのだから、表面上ではだれが貧困層にいるかなどわからない。それを知ってもらうために子ども食堂を活用できればと考えた。中間層以上の貧困でない人で、最初は興味を持ってくれた人たちだけでもいい。そういった人たちを集め、実際に子ども食堂に見学に来てもらうのだ。子ども食堂側はその日に特別なにかをする必要はなく、ただ見学に来てもらうだけでいい。子ども食堂を利用する人の数を見て、貧困が自分のすぐ近くで起きていることを肌に感じてもらうことができれば、それだけでも効果は十分にあるはずである。そこから自分のことのように考えてくれる人が増えれば、自然と認知は広がるのではないだろうか。子ども食堂に実際に行かなくても、ニュースや報道番組で子ども食堂の様子を流せば、それもまた効果的であると思う。

子どもの貧困問題は、上記で述べたように表面上では見えないことが多い。それを広めるとなると非常に大変だが、子どもの虐待問題に関しては、事件が発覚すればニュースで報道されるので子どもの貧困問題よりかは受け入れられやすいのではないだろうか。この問題が受け入れられにくいとすれば、それは子どもがいない世帯である。子どもがいない世帯に子どもの虐待が～などと説いても、子どもはいないからわからないとなってしまう可能性がある。そういった人たちに向けては地域の紐帯の強化することで解消できるのではないかと考える。地域の紐帯を強めることは子どもがいない世帯に対してだけではなく、子どもの虐待の早期発見にもつながるであろう。地域の紐帯が近年弱まっている傾向がある。回覧板を回すだけのような冷たい地域が増えているのだ。それではもし近所で虐待があったとしても気づかないのは当然である。地域全体で何でもいいので何かに取り組むことで地域の紐帯を強め、地域の中でのコミュニケーションを取れるようにしておくことが大切であるという考えに至った。特に都市部では人の目が多いが、ご近所付き合いというものがないように思える。実際に都市部で暮らす人に話を聞くと、ほとんどないというのだ。地方では地域の紐帯が都市部に比べそこまで弱っていないが、弱まっていることは確かである。地域の紐帯を強化することによって子どもの貧困・虐待問題を認知するとともに、虐待の早期発

見や貧困層の助けとなることがある可能性があるのだ。可能性があるならば取り組まない手はないと思う。

まとめ

今回のレポートでは子どもの貧困問題と虐待についての説明とそれらを認知させるにはというテーマのもと書いてきた。子どもの貧困と虐待は互いに関係しており、それらを世間が認知することが子どもの貧困・虐待問題の解決に繋がる。子どもの貧困問題は放置すると日本にとって悪影響しかない。この問題を解決することは日本を救うこととなる。また子どもの命を救い、格差をなくし、住みよい国になっていくだろう。子どもの貧困問題を認知し自分のことのように受け入れることは近い将来当たり前になってくるだろう。そうでなければ子どもの貧困・虐待問題は解決されていかないからだ。この問題が地球温暖化のように世間に広まり、当たり前のようになるにはまだ時間がかかるかもしれない。世間がどれだけ子どもの貧困に対し興味を示し、問題解決に取り組むかがカギとなるであろう。また身近に感じられる存在の中に貧困層の人がいない人もいるはずである。そういった人たちが自分の問題のように受け入れるには、今行われている取り組みではまだ足りないだろう。これからの課題として、どう取り組みを変えていくのか、国を動かすにはどうすればよいかなど問題は山積みである。子どもの貧困・虐待を減らすための一つの方法として今回のレポートを読んでもらえるとありがたい。子どもの貧困・虐待から子どもたちを救う環境づくりを日本の大人たちは目指していくべきであると考える。

参考文献

注１　https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-katei/boshi-setai_h23/index.html　厚生労働省「平成二十三年度全国母子世帯等調査」
注２　https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html　厚生労働省「平成二十三年度国民生活基礎調査」

7 月 14 日　藤が丘子ども食堂

1　食堂紹介
開催場所：名古屋市名東区藤が丘 177　市営藤が丘荘 4F 集会室 代表：木村さん 実施日：毎月第 2 土曜日 参加費：子ども無料・大人 300 円 参加人数：子ども 2 人 献立：豆腐ハンバーグ、サラダ、コーン入り炊き込みご飯、みそ汁、フルーツ
2　当日の流れ
午前 10 時　集合、ご飯の作り方の確認、準備 午前 10 時 40 分　子どもとご飯を作る 午前 11 時 30 分　食事 午後 0 時 40 分　片付け 午後 1 時 15 分　解散
3　食材・献立
食材：近くのマックスバリューで購入 献立：管理栄養士の福岡さんがバランスを考え、事前にメニューを決める
4　感想
この日は三連休で名古屋は人が多いので、たくさんの子どもが来ると思っていたが全く来なかった。自分たちが見学に来るということで、代表の木村さんが開催場所の市営藤が丘荘に住む中学 2 年の男の子と、その妹を呼んできてくれた。その二人だけで始まった。代表の木村さんの話を聞き、この藤が丘食堂は名東区に住む人たちに存在を知ってもらえていないということが分かった。様々な工夫をしており、どんな工夫があるか相談されたときに、周りの子ども食堂と意見交換をしてみては？と提案したが、木村さんは他の所は関係ないし興味がないと言っていた。閉鎖的な食堂となってしまっていると感じた。場所もビルの 4 階と非常に分かりにくい場所にあるため、呼び込むのも大変だと感じた。食材の確保も買っていると聞き、経済的にも厳しい食堂であると感じた。

7 月 15 日　おかえり食堂

1　食堂紹介
開催場所：豊田市梅坪町 1-5　梅坪台交流館 代表：とのもさん 実施日：毎月第 3 日曜日 参加費：子ども 300 円　大人 500 円 参加人数：15 人程度 献立：冷うどん、いなり寿司、おにぎり、ナスとアスパラの肉巻き、フルーツ
2　当日の流れ
午後 3 時　役員集合、準備開始 午後 5 時　受付開始 午後 5 時 30 分　食事 午後 6 時 15 分　片付け開始 午後 7 時　終了・解散
3　食材・献立
食材：近くのスーパーからの提供がほとんど。足りないものは買うか、農家さんから売り物にならないものをいただいている。 献立：管理栄養士さんが考えていたが、今は担当者が考えて、皆に事前に共有する。
4　感想
子どもは 10 人程度いたが、ほとんどは役員の人の子どもだった。食事の量が多く、自分でも腹いっぱいにほどの量があった。代表者の話を聞いて、できれば孤食をなくすために平日にやりたいと話していた。この子ども食堂は近くのスーパーから食材の提供を受けており、食費はかなり安く抑えられている。それも食堂側の人が欲しい食材を提供してくれるとのことなので、出せる料理のメニューは幅広く、旬の食材も子どもたちに食べさせてあげられることが可能なことが子どもにとっては嬉しいことなのではないかと感じた。

12 月 8 日　藤が丘子ども食堂

1　食堂紹介
開催場所：名古屋市名東区藤が丘 177　市営藤が丘荘 4F 集会室 代表：木村さん 実施日：毎月第 2 土曜日 参加費：子ども無料　大人 300 円 参加人数：21 人 献立：麻婆豆腐、サラダ、玄米、餃子、青菜炒め、みそ汁、ケーキ、たません
2　当日の流れ
10：00～　集合、雑談、献立の確認、準備 10：40～　調理開始 11：30～　調理終了、食事開始 12：40～　片付け 13；30～　解散
3　食材・献立
食材：近くのマックスバリューで購入。寄付のものも有り。 献立：管理栄養士の方が献立を考える。事前に献立は決めておく。変更もある。
4　感想
今回の訪問で二回目となった藤が丘だが、前回よりも子供の数が多く驚いた。今はクリスマスシーズンなので会場を飾り付け、ケーキまで用意していた。子供にとってはとても嬉しい空間だったと思う。特に変化があったと思ったのは、今回参加した子供全員が、親と一緒に来たということ。これは、親の立場から見ても子ども食堂をぜひ利用したいという意識の表れなのかと感じた。写真は子供たちによるハンドベルの演奏。

12 月 16 日　おかえり食堂

1　食堂紹介
開催場所：豊田市梅坪町 1-5　梅坪台交流館 代表：とのもさん 実施日：毎月第 3 日曜日 参加費：子ども 300 円　大人 500 円 参加人数：15 人程度 献立：サラダ、果物の盛り合わせ、豚の生姜焼き、野菜の煮物、白米、ケーキ、お菓子
2　当日の流れ
15：00～　集合、準備開始 17：00～　受付開始 17：30～　食事開始 18：15～　片付け開始 19：00～　終了・解散
3　食材・献立
食材：近くのスーパーからの提供がほとんど。足りないものは買うか、農家さんから売り物にならないものを譲り受ける場合もある。 献立：管理栄養士の方が献立を考える。事前に献立は決めておく。変更もある。
4　感想
クリスマスシーズンのこの時期は、藤が丘と同じくケーキやお菓子を用意してあった。ケーキやお菓子は提供されることがないが、子どもの為に費用が高くなっても購入することにしたという。やはり、そのシーズンだからこその食事での楽しみ方を覚えてもらいたいという思いがあるという。前回は親子で来る子どもが多かったが、今回は親子できた子と、そうでない子はちょうど半数程度であった。役員の人同士は仲が良く、いいことであるが、正直その輪の中に入りにくい雰囲気もあり、前回では書かなかったが、今回もやりづらさを感じた部分はあった。写真は全体の雰囲気を撮った写真である。